



バンコク便り



1. はじめに

4月のタイは年間を通じて一番暑く水掛祭りで有名なソンクラーン（タイ正月）があり、多くの観光客が路上で水を掛け合うなどタイを代表するお祭りの一つとなっています。残念ながら今年も各種イベントが中止となり、タイ政府ではソンクラーン休暇後1週間の在宅勤務を推奨していました。4月下旬の1日当たりの新規感染者数は15,000人前後（3月末 約27,000人）と徐々に減少傾向にあり、感染急拡大とはなっていません。

2. 現地ビジネス情報

(①追加緩和！5月からのタイ入国規制)

タイ入国者に義務付けてられていた渡航前72時間以内のPCR検査が4月より撤廃されましたが、さらに5月1日からワクチン接種完了者は、到着後のPCR検査が不要となります。ただし滞在中は、ATK（抗原検査キット）検査でセルフチェックすることが推奨されています。また10,000米ドル以上の保険加入およびタイランドパスに登録することにより、タイ到着後に検疫施設で待機することなくタイ国内を自由に移動できます。

タイは4月の規制緩和から渡航者が増加し、大手ホテル予約サイトでは世界で最も検索された目的地となりました。今後も段階的に規制緩和が予定されるタイは、益々ホットなスポットとなりそうです。

なお、日本帰国（入国）時の水際対策がありますので、訪タイされる際には事前に帰国時の手続き等についてもご確認ください。なお、一部入国手続きは、WEB上で入国前に済ませることができる「ファストトラック」制度もありますので、ご利用をお勧めいたします。

	ワクチン接種完了	ワクチン接種未完了
※タイ入国時	渡航前陰性証明不要 タイランドパス登録 医療保険1万米ドル ATKセルフチェック	
	PCR検査不要	5日間の検疫 4～5日目にPCR検査

※詳細発表は4月末頃を予定

厚生労働省 HP: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html

(②ASEAN 経済の見通し)

世界銀行の東アジア・大洋州(EPA) (※1) 地域半期経済報告書によると、EPAの2022年実質GDP成長率見通しを前年比5.0% (下振れ時4.0%)、ASEAN5ヶ国(タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム)では同4.9% (下振れ時4.3%)と予測していますが、米国の金融引き締め、中国経済の減速による輸出縮小、ウクライナ侵攻による供給不足などが経済成長を低下させるリスクとして挙げられています。

タイ中央銀行(BOT)では2022年タイGDP成長率見通しを3.2%と予測し、マイナス要因として上記リスクに加え、オミクロン株の感染長期化と世界的なエネルギー価格上昇などの影響が大きく、前回発表より0.2%下方修正しています。マイナス要因のさらなる悪化やインフレ率が最大6%となる可能性もありますが、2022年後半にはエネルギー価格の低下により徐々に落ち着くとの予想です。ASEAN諸国では新型コロナ関連規制が次々に緩和されwithコロナの方針となっており、これらの環境にいち早く対応する国から景気回復に繋がるのか注目が集まります。

※1 中国、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、タイ、東ティモール、ベトナム、太平洋島諸国

3. 現地トピックス (新20バーツポリマー紙幣)

3月24日、タイ中央銀行から新たな20バーツ紙幣の発行が発表されました。こちらは材料に合成樹脂を使用したポリマー紙幣(薄いプラスチックのような感触)となり、サイズ、デザインは現行の紙幣とほぼ変わらない仕様となっています。タイでは20バーツ紙幣の使用頻度が非常に高いため劣化や磨耗が激しいですが、この変更により紙幣の品質、衛生面と耐久性の向上となるそうです。既に流通している20バーツおよび他の紙幣は従来の紙タイプのため、初めて手にするときは違和感があるかもしれませんが、実際に使用できますのでご安心ください。

新20バーツ紙幣



出所: Bank of Thailand

【本件に関する連絡先】 荘内銀行営業推進部 地方創生室 軽部・齋藤 023-626-9050